

金継ぎ体験で伝える「わびさび」の心

森岡 千廣 (京都先端科学大学)

1. プロジェクトの背景

近年の外国語教育では、言語能力の習得に加えて、異文化理解や文化間比較の視点を育むことが重要視されている。全米外国語教師協会(2015)が提唱する外国語学習の5Cにも「Cultures」が含まれるように、文化学習は外国語教育の不可欠な要素として位置づけられている。日本文化の中でも、「わびさび」に代表される価値観は、日本人の美意識や精神性を特徴づける重要な概念であり、「無常観」「不完全さの美」といった独自の感性を内包する(吉村・山田, 2017)。しかしその抽象性ゆえ、外国語学習者にとって理解が難しい領域でもある。

筆者は2023年度グローバル人材奨励プログラムでタイ・チェンマイに滞在した際、主活動とは別に現地大学から日本文化紹介の依頼を受け、日本文化に関する講演を行う機会を得ることができ、その際にこの「わびさび」と「金継ぎ」を関連付けワークショップを実施した(森岡, 2024)。その後新たな依頼を受け、森岡(2024)を基に改良し、今回のプロジェクトとして展開するに至った。

2. 本プロジェクトの目的

本プロジェクトの主たる目的は、海外の日本語学習者に対して、日本の伝統文化に内在する価値観を体験的に理解する学習機会を提供することである。特にベトナムでは、日本留学や就職志望者も多い一方で、「日本人による文化ワークショップ」や「教員以外の日本人との対面交流」の機会が限られていると現地協力者から聞いていた。本プロジェクトでは、こうしたニーズに対する一助となるべく、講演と金継ぎ体験を中心とした文化理解プログラムを設計した。

講演パートでは、日本文化を象徴する美的概念である「わびさび」について、N4程度に語彙調整した上で例を示しながらわかりやすく説明す

ることで、学習者が価値観の背景を理解できるよう構成した。続く金継ぎ体験では、壊れた器をつなぎ直し、その割れ目に金を入れていく(“壊れ”を際立たせる)過程を通じて、「わびさび」に含まれる価値観を身体的に捉えることを目指した。

3. プロジェクトの概要

本プロジェクトは、タイ2校およびベトナム1校を対象に実施したものであり、ベトナムでは筆者単独で講演およびワークショップを実施した。一方タイの2校では、共同講演の第二部として、筆者主導で様の内容を行った¹⁾。



図1 現地での講演の様子

3-1 プロジェクト全体のスケジュール

ここでは、準備段階から帰国後の分析まで、プロジェクト全体の大まかな流れを整理する。

表1 プロジェクト全体のスケジュール

日時	活動
4~8月	日本にて、活動準備および現地協力者との打合せ
8月末 ~9月中旬	渡航・講演ワークショップ実施 現地協力者との振り返り
9月中旬 ~10月	アンケートデータの分析

3-2 渡航中のスケジュール

渡航中は、事前に計画した講演・ワークショ

ップを各大学で順次実施し、現地協力者との調整や振り返りをその都度行いながら進めた。表2では現地でのスケジュールについて示す。

クシヨップ・発表までの120分のプログラムを実施した。具体的な構成を表3に示す。

表2 渡航中のスケジュール

日時	活動
8月29日	タイ（バンコク）へ渡航
8月30日	共同実践者・現地協力者と打合せ
9月1日	バンコクのA大学にて、講演会およびワークショップの実施
9月2日	バンコクのB大学にて、講演会およびワークショップの実施
9月3日	共同実践者・現地協力者と、ワークショップの振り返りおよび共同研究の打合せ
9月4日	ベトナム（ハノイ）へ渡航 ハノイからハイフォンへ移動
9月5日	現地協力者と打合せ
9月8日	ハイフォンの大学にて、講演会およびワークショップの実施 現地協力者とワークショップの振り返り・今後の活動の打合せ
9月9日	帰国

3-3 現地での活動内容

本章では、筆者が単独で実施したベトナムでの講演およびワークショップの内容を中心に報告する。本プロジェクトでは、伝統工芸「金継ぎ」を題材に「わびさび」の価値観を体験的に学ぶ機会を提供した。扱う材料や工程の安全性・時間的制約を考慮し、森岡（2024）と同様に初心者でも実施可能な「簡易金継ぎ」の手法を採用した。

まず現地協力者との事前打合せでは、道具や材料の確認を行った上で、当日の段取りや道具配布の流れを共有するため、関係者のみを対象としたミニワークショップを実施した。これにより、協力者全員が手順と意図を十分に理解した状態で本番に臨むことができた。

当日は、有志の学生ボランティアを含む現地の協力体制のもと会場設営ののち、講演・ワー

表3 当日の流れ

所要時間	活動
10分	実施校の関係者による挨拶・講演者紹介など
30分	「わびさび」に関する全体講演
50分	「わびさび」の例としての「金継ぎ」体験ワークショップの実施 ※2~3人のグループで体験
10分	各グループで、体験中に感じたことや作品に込めた意味などを話し合い、日本語で発表
15分	振り返りアンケート
5分	写真撮影・閉会の挨拶

4. プロジェクトを通して得られた成果

本プロジェクトの講演および金継ぎワークショップには、いずれの大学でも多くの学生が参加し、非常に肯定的な反応が得られた。

また、体験後には、金継ぎの過程と「わびさび」を関連づけて学びを整理し、自身の作品への意味付けや体験中に感じたことについて日本語で発表する機会を設けた。これにより、日本文化の深い価値観を自分の言葉で表現する経験が生まれ、参加者たちの今後の日本語学習に役立つと考えている。

さらに、今回の実践を通して各実施校との関係が深まり、今後のワークショップ実施や共同研究に関する相談が寄せられるなど、海外の日本語教育現場とのネットワークが広がったことも大きな成果の一つである。



図2 参加者の作品

5. 今後に向けて

今回の活動を通して、「わびさび」のような日本の価値観を体験的に学ぶことが、異文化理解だけでなく自文化への気づきにもつながることを改めて実感した。同時に、現地で学生や教員と直接関わる中で、海外の日本語教育現場において、日本人との交流機会や日本文化に触れる機会が想像以上に求められていることも改めて

認識した。今回のプロジェクトを通じて生まれたつながりや信頼関係を大切にしながら、今後も国や地域、対象者の異なる様々な場で、体験型の文化学習と日本語教育を結びつけた実践を継続していきたい。そして、こうした取り組みをより規模の大きいプロジェクトへと発展させていくことで、日本語教育と異文化理解教育の両面への貢献を目指し、研鑽を積んでいく所存である。

注

(1) 第一部は異なる講演者が担当し、ポップカルチャーと日本語教育をテーマとしたワークショップが行われた。ワークショップの構成や理論的背景については、松井・森岡（2025）に詳述されている。

参考文献

- (1) 松江夏津紀・森岡千廣（2025, 5月17日）[学会発表]「ポップカルチャーと伝統文化の交差点 ―アニメを活用した文化理解と言語習得―」日本比較文化学会第47回全国大会 2025年度国際学術大会.
- (2) 森岡千廣（2024, 3月31日）[学会発表]「金継ぎ体験を通じた日本の美的感覚探求―タイでの実践から―」第2回多文化多言語研究会.
- (3) 吉村耕治・山田有子（2017）「侘び・寂びの色彩美とその背景―和の伝統的色彩美の特性を求めて―」『日本色彩学会誌』41(3), 40-43. 日本色彩学会.
- (4) National Standards Collaborative Board. (2015). World-Readiness Standards for Learning Languages (4th ed.). Alexandria, VA: National Standards Collaborative Board.